

香取市災害復興会議 第3回会議概要

日 時 平成23年9月26日(月) 午前11時から午後12時40分

場 所 香取市役所 4階 庁議室

出席者 13人 欠席4人

岸井隆幸	前田正博	野口晴男	浅野文男	柏木幹雄
高岡宏基	飯田教久	松井健一	花澤 栄	尾形忠志
根本由美子	鈴木恵子	香取理恵	(敬称略)	

1 開会

2 あいさつ

○香取市災害復興会議 議長 岸井隆幸

3 議事

(1) 市長・市民復興対談の結果について(報告)

(2) 区長・町内会長等意見交換会の結果について(報告)

(3) 香取市災害復興計画(案)について

(4) その他

○香取市災害復興会議第2回会議結果について

○今後のスケジュールについて

4 議長総括

5 市長あいさつ

【会議での意見等】

○ 市民の代表との対談、区長・町内会長との意見交換会の資料について、意見の一覧はこれで十分わかるが、これに対して市・市長からの回答が示されてなく、市長・市側の対応がわからないので工夫願いたい。

○議長

最終的に復興計画の参考資料として市民意見という形でまとめるということなので、議事録の確認をしたほうがいいと思う。加えて、市のコメントも付言すると雰囲気かわかる。

財政的な話について確認で、市の一般会計予算は年間どの位か。

(事務局) 一般会計だと300億円位です。特別会計等を含めると全体で約500億円です。

○議長

今回、補正予算を142億円組んでいるが、結果的に、市の支出は一般財源として16億円位とのことであり、財政調整基金で9億4,000万円ほどをカバーできるということだが、財政調整基金そのものは全体でどの位か。また現在の公債費比率はどの位か。

(事務局) 財政調整基金は、平成22年度末で、約38億円です。公債費比率は、22年度決算で8.5%です。

○議長

142億円というのは、災害復興計画全体をカバーしているものではないですね。

(事務局) 当初、市内の公共施設の被害額を約200億円と見込みましたが、これからまた追加や減額があると思います。復興計画の事業全体では、一部事務組合の事業費などは入っていません。そういうものを含めて、大体概算で200億というように市では想定しています。この計画は単なる復旧事業だけでなく、産業振興や農業振興、観光振興などの項目も盛り込んでいますので、今後さらに追加になっていく可能性があり、さらにもう少し広がりが出てくる可能性があります。

○ 市長と市民の懇談会の中の津波の心配の話について、想定外というものがあるが、利根川には東庄町に河口堰があり、今回、河口堰より下流には2メートルぐらいの津波が観測されたが、その上流は30センチぐらいであった。より大きな津波の可能性が全くないわけではないが、佐原だと海から約40キロ上流になるので、あまり心配はないと思っている。

堤防について、護岸の災害査定が終わり、発注手続を進めている。堤防はまだ災害査定が終わっていない状況である。今年は9月に2回の出水があり、河川敷が水に浸かってしまった。水の郷さわらの川の駅も一面ごみの山になってしまった。

○ この計画案は、短期間の割に網羅的に整理されている。復興計画としては、いわゆる復旧部分と復興部分と二面立てになっており、なおかつ総合計画に位置づけ、リンクさせるということで、計画案としてはよくまとまっている。今後、市民の方々にパブコメを行い、いろいろな意見が集約されると思うが、現時点では非常にうまくまとまっていると思う。

○ 幅広い地域、幅広い層の皆さんから意見や要望事項が出ているが、これが安心安全のまちづくりのスタートになると思う。これを丁寧に取り上げて、実行してほしい。計画案の中にも、皆さんからの意見が相当組み入れられている。市長も災害前から安心安全のまちづくりと言っていたが、これを契機に安心安全のまちづくりのために、もう一度みんなで協力し合って、復興計画を実行してほしい。

○ 農業では、来年、米の作付ができることが希望。来年、液状化になったところでも、少しでも植えられるような方向で進めてもらいたい。

○ 私は消費生活相談員をしているが、何の相談をしているかご存じない方も多いのでは

ないかと思う。今回の震災では、ガソリン不足や放射能の心配、電気、水、ライフラインにかかわる苦情があり、そういう苦情を言う窓口として相談を受けている。香取市はまだ消費生活センターになってなく、相談日は週3日のため、相談員がいない日はどうするのかなど、まだ発展途上の窓口であるが、震災、先日の台風など、何か市民の皆様
の苦情などあれば、相談窓口を利用してもらいたい。それを市民に周知してもらいたい。

復興案については、この内容を市民がどれほど知っているのか。私もこの会議に参加して市も頑張っているとわかるが、市も広報・周知をしていると思うが、実際に全壊、半壊、そういった被害に遭った方に、市も液状化問題に取り組んでいて、今こういう段階なんだということを随時、情報提供してほしい。市民の方に市の努力も知ってもらいたいと思っている。

- 「佐原おかみさん会」は、観光で店の営業を賄っているメンバーが多数おり、自分たちに限らず、香取市、日本全体が今度の震災で大きな痛手を負ったということを、しみじみ感じている。これを乗り越えるには、莫大な費用と精神的負担を乗り越える、時間と精神力が必要と漠然と感じている。

資料の中にもあるが、観光客が大分減り、少し戻しつつあるが、お店によっては10年前の売りに上げに戻ってしまっている。こういう時だからこそ、行政も、市民間も、連携して、情報交換して、情報開示をし、知る努力、知らせる努力を各々がすることが必要である。自分たちが乗り越えていくことが、まち全体、日本全体がこの震災を乗り越えていくことだと感じている。少しの間はいろいろな意味で辛抱が必要だが、努力していかないといけないと思う。

- 資料の2の町内会長さんとの意見交換会について、既に解決しているものもあるので、市の対応や回答などを入れてはどうか。
- 現在、佐原の観光客は激減している。観光資源も被災しており、それに対する復興が計画に盛られているが、観光客の激減に対する計画、資金的なものは計上されていない感じがする。観光客の誘致にもっと力を入れてもらいたい。風評被害の根源は、原発の問題もあるが、東電の電力不足による、節電、計画停電もあり、節電のみならず、あらゆる面に節約するようになった。節約は通常はいいことだと思うが、観光、商業の立場から見ると困る。どんどん遊び、お金を使ってもらわないといけない。そういう点の配慮がちょっと足りない感じがする。
- 農業関係では、風評被害が大きい。主力の米と甘藷に関しては、原発関係の被害は出ていないが、液状化の問題が大きい。パイプラインの破損などにより、今年、米の作付もできないという大変厳しい中でやっている。その中でも全体的に考え、被害が大きいので、市としては優先順位を決めて、その中で対応をお願いしたい。

- ある介護施設の職員が話をしていたが、震災当日、地震発生後30分程で、施設担当

の市職員が施設の様子を伺いにかけてくれた。そういう市の職員がいたことに感謝をしているということであった。

また、災害があった場合、学校が避難場所になっているが、そこへ避難しても、食べ物も水もなく、違う場所へ避難したという話を聞いた。学校には幾つかの備品を備えてあるが、食料や水などは配備されていない。そういうことを含めた計画を立ててほしい。

- 計画については、非常に短期間に、体系的にまとめられたと思っているが、計画は作った段階が終わりではなく、実行することが大事である。復旧事業を機会に、4つの地域が連携して、まち起しをするという気持ちを前面に出して取り組むことが必要。

気になった点は、避難所がまだ復旧していないという質問があり、同じ震災が今日起きたとして、まだ手当てしていない施設等があれば、早目に手当てをし、その行動を少し発信したほうがいい。市民の皆さんに安心感を与え、この計画が動いていることを示すための発信の工夫をしたほうがよい。

観光に関して、私は、伊能忠敬に非常に興味があり、佐原に大変関心を持っていたが、今回来てみて、いろいろな可能性について印象を持っている。知られていないことが余りにも多い。香取市として、地域全体で一日過ごせるような環境にしてもらいたい。東京から我々が来ても、佐原の一面を見て帰ってしまい、全体を見てゆっくり泊まって帰るというイメージにはなっていない。

私の友人の農業関係の者がこの地域の農業のクオリティが非常に高いと注目していた。そういう利点を外の人に見てもらうことも意味がある。12月には小江戸マラソンで4,000人参加する。その機会に観光PRをすとか、いろいろな機会を使いアピールして、外の人にわかってもらうことが大事だと思う。

○議長

3回に渡ってこの会合を持ったが、各委員からも発言があったとおり、大変広範囲な計画が比較的短時間でうまく整理されているというのが一般的な印象だと思う。問題はこれからで、各委員からご発言があったとおり、計画は計画としてあるにせよ、それをいかに実行するかが大事である。我々の責任の一つとして、進捗管理というか、ちゃんと動いているか確認してほしいという役目あるようなので、引き続きこの会で広く支援をし、目配りをしていきたいと思う。

基本理念で市長から、「支え合い、助け合いの力で輝く未来へ」というメッセージをもらっている。まちの復興に関しては、行政だけではとてもできるものではなく、特に観光については行政が得意にする分野ではないので、実際に市民の方の努力の積み重ねだと思う。

計画を具体的に進めていくには、関係者に対してよりわかりやすく、何を目指しているのかをうまく示すことが必要だと思う。具体的には、それぞれの方にとって大事な部分をうまく抜き出して説明することが必要である。各分野別や相手ごとに、少しかみ砕いて説明するような広報活動が必要だと思う。

国、県の皆様には、多くの公共施設が公益のものであるので、ぜひご尽力いただき、

早期に復旧・復興ができるように、ご指導をいただきたい。

7年間の計画となっているが、ややもすると目標感を失いがちになる。農業ならいつごろまでに何をするというように、はっきりとした時間と目標を明確にする。7年後に伊能忠敬の没後200年だということだが、それに向かってまちがさらに魅力的になり、多くの方が来てもらえるようなまちづくりを、やっていくことも大事だと思う。目標感を身近に共有できるように、活動をわかりやすくを説明する段階だと思う。

風評被害の話も出たが、全体的に自粛ムード、緊縮ムードが続いているとなかなか世の中が回らないということも多いと思う。

ちょっと視点を変えて、なるべく広域的な目で、香取のみならず、成田など、広くこの地域全体で凄いというものをできればという気がする。広域的に、世界に誇るべきものがここにはあると思う。伊能忠敬の業績も含めて、成田の街並みなど、世界からお越しになる人たちが十分に楽しんでもらえる個別の要素があるので、うまいタイミングで世間の方にお披露目をし、世界の目から安心のイメージを語ってもらうような、そういった仕組みも要と思う。地道に一つ一つ取り上げていくことも大事だが、戦略的な取り組みも必要である。

災害というと、火災の問題、水害の問題があり、今回はこの地域では、液状化の問題が出たが、安全安心の質を高めていく努力は、この災害の復旧、復興に関わらず引き続きやらなければいけない。こういう災害が起き、弱点がはっきりしたので、そこをまず解決しながら、さらに高い安全安心を目指して努力をしてもらいたい。

多くの自治体が、今、同じような計画づくりをしている。特に東北の津波の問題というのは、なかなか解きにくい問題であるが、そこでも、今回の津波の対応のみならず、より高い安全安心を目指している。様々な災害がやってくる国であるので、我々自身が自然とともに生活をし、安全安心に向かっての質の向上を今後もお願いしたい。

この点は国とか、県の立場からやっていただくことも多々あるので、さらに高い安全安心を目指して協力いただきたい。これからは具体化する作業なので、更なるご協力をお願いしたい。